

これを地区別にみると日給制の場合、月給制に
対して、福島地区の場合、3倍以上の出費をして
いるのが目立つ。

地区別にみれば、福島と郡山の市中心部が2倍
半から3倍の出費が目立っている。

図42

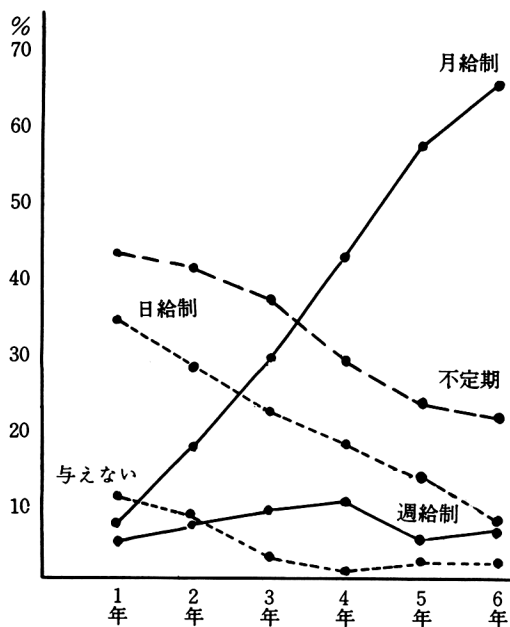
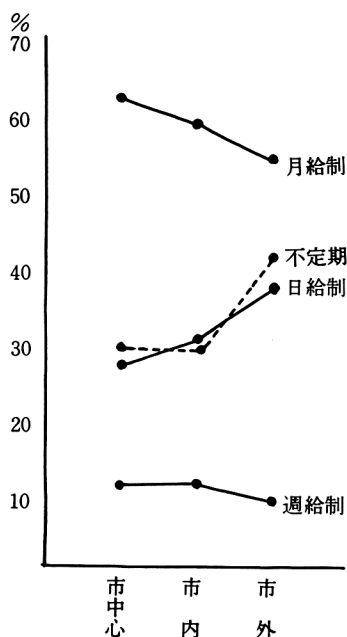


図43



また、学年別に与え方のちがいをみると、県全体

では、毎日与えるすがたは、学年が進むにしたが
って減少し、月給制は、上級に進むにしたがって
増えている。また無計画に与えるすがたは、学年
が進むにしたがって減っている。

図43から地域別にみると、市外地域ほど無計画
な与え方をしている傾向にあるのではないかと考
えられる。

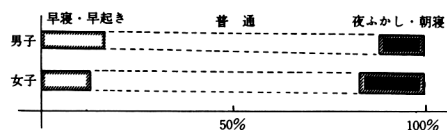
日給制で与えている傾向も市外地域に多いよう
である。「あなたは、お子さんに与えた小づかいの
用途をたしかめるほうでしょうか」という質問を
つけ加えて、調査した場合、かなりの数で「いい
え」の報告が出てきそうな予感もする。これから
の家庭では与え方の他に、使い方の指導も必要な
のではなかろうか。

(14) 睡眠・起床について

県全体では、「夜ふかし・朝寝」と「早寝・早起
き」とは、ほぼ同程度の14～15パーセントで約70
パーセントは「普通である」とみている。

しかし、それを男女別にみると、下の図44のよ
うに、夜ふかしは女子に多く、早寝早起きは男子
に多いといえそうである。

図44



地区別・地域別にみた特徴はあらわれていない
が、学年別にみても、次の図45にみられるよ
うに、学年が進むにしたがって「夜ふかし」の傾
向がみられ、低学年ほど「早寝・早起き」の傾向
がみられる。

これは、低学年ほど、保護者のしつけについて
順応しているとみるか、または、高学年ほど、家庭
学習課題が多くなるためとみるか、低学年ほど、
翌日の学校生活への期待が大きいためか、高学年
ほど、TV等の聴取番組が多いためか、種々の背
景が考えられると思う。

地域別・学年別にみると、市中心地域では「夜
ふかし・朝寝」は、3年生ごろから始まり、市外地